

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

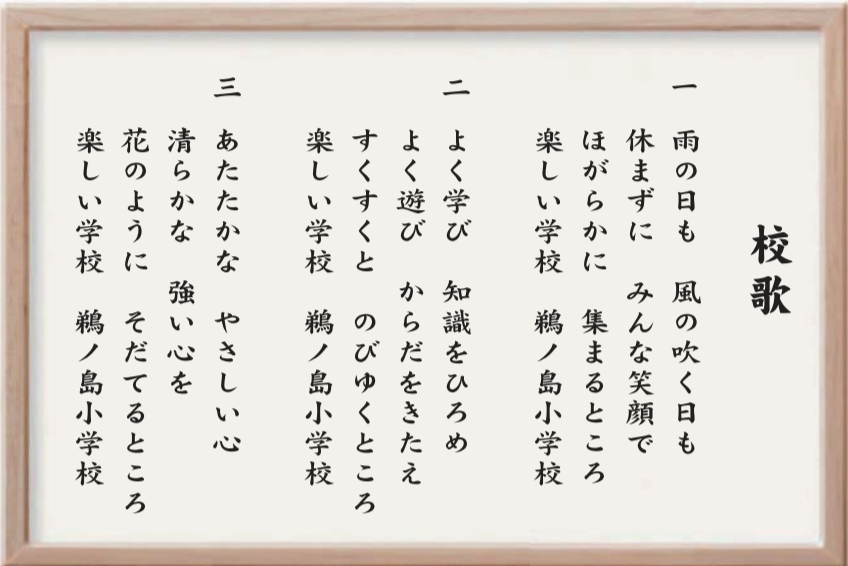
〈vol.19〉

〈鵜の島③ 小学校歌〉

1939年に宇部市立鵜ノ島尋常小として開校した鵜ノ島小。地域名は鵜の島で、学校名にだけ「ノ」が使われていることについて「創立時に書類に力を入れたからではないか」という話を地域の高齢者から聞いたが、真偽は定かではない。

生徒の心構え、明るく軽やかに

現在は2代目 開校20周年に制定



校歌

一 雨の日も 風の吹く日も
休まずに みんな笑顔で
ほがらかに 集まるところ
楽しい学校 鵜ノ島小学校

二 よく学び 知識をひろめ
よく遊び からだをきたえ
すくすくと のびゆくところ
楽しい学校 鵜ノ島小学校

三 あたたかな やさしい心
清らかな 強い心を
花のように そだてるところ
楽しい学校 鵜ノ島小学校



正門前の校舎に掲げられた「鵜ノ島最高！」の横断幕

現在の校歌は2代目で、開校20周年の記念事業として作られたもの。作詞は市出身の翻訳家で文筆家の森本寛丹さん。森本さんは厚南中の校歌も作詞している。作曲は山口大教育学部の鶴岡義雄さんが担当した。

小学校歌の多くは、地域の原風景が歌われており、市内の小学校では7校で「霜降山」あるいは「霜降り」の言葉が入っている。ところが、鵜ノ島小学校には地域の自然を表す言葉は一つもない。校歌にありがちな低学年では意味さえ分からないであろう難しい言葉が使われていることも多い。作詞した森本さんの

「こだわりの曲。本人談が掲載されている同校の50周年記念誌「飛翔」によると、小学生には理解できない漢語を使わず、宇部にはふさわしい景色が少ないので、生徒の心構えを中心とした表現を心掛けたという。「楽しい学校にするかは、生徒一人一人の心構えにかかっているという願いをこめてこの歌を作った」とつづつており、1〜3番の最後をすべて「楽しい学校 鵜ノ島小学校」としたのは、森本さんの願いそのものと分かる。昨年4月に赴任した清水昌典校長は「『かしこく やさしく すこやかに』の校訓を詞で示して

おり、明るく軽やかな曲調で歌いやすく覚えやすい。昭和30年代に作られたものとしてはかなり斬新だと感じた」と語る。正門前の校舎の3階には、創立80周年記念で決まったスローガン「鵜ノ島 最高！」が掲げられている。コロナ禍で校歌を歌う機会ほとんどなくなり入学式と卒業式、学期の始業式、終業式くらいになったが、清水校長は「もうすぐ卒業を迎える6年生には、詞に込められたように、楽しい学校の思い出と『鵜ノ島最高』という気持ちを胸に次のステージへ羽ばたいてほしい」と願っている。